



深まる秋の中で行われた落水式

厚真ダムを見下ろす高台で落水式

町土地改良区（細川隆雄理事長）は10月19日、厚真ダムを見下ろす高台の水神宮で落水式を行い、約30人が出来秋に感謝しました。

土地改良区によると、今年も適正な肥培管理などによって農作物は全体的に昨年より豊作でした。参列者は、深まる秋を体感しながら来季への期待を膨らませました。

町内の農場で10月27日に発生した高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）で、国の指針に沿って行われた防疫措置がすべて終了しました。

町は、北海道高病原性鳥インフルエンザ対策本部を支援するため、厚真町スポーツセンターを現地対策本部指揮室に充て、24時間体制の防疫作業に町職員延べ110人を派遣しました。

北海道による鶏約16万羽の埋却には、土質や地下水、水源への影響、臭気対策など万全の措置が講じられました。また、町内では家さんなどの移動制限区域などが指定され、関係車両の消毒も実施されました。この結果、11月3日に農場の防疫措置は終了。その後の検査で農場の陰性が確認されたことから移動制限区域は25日に解除されました。

高病原性鳥インフルエンザすべての防疫措置が終了



バスに乗り込み防疫作業に向かう職員

町内の女性起業家による講演会



実体験などを語る村上朋子さん、北條佳苗さん、宮野和美さん、堀田祐美子さん（左から）

町内で起業した女性4人の講演会「仕事とくらしと厚真とわたし」が10月20日、総合福祉センターで開かれ、参加者は経験談に耳を傾けました。

町が主催し、エーゼロ厚真が企画・運営。喫茶店経営の村上朋子さん、ヨガスタジオ・カフェ店経営の北條佳苗さん、パン工房経営の宮野和美さん、農産物の加工販売を営む堀田祐美子さんが経験談を発表しました。

村上さんは、町民の楽しそうな姿や元気な姿が自分のパワーの源としたうえで「産業、教育、福祉すべてがつながり、すべての町民がホッとできる居場所を作りたい」と抱負を述べました。北條さんは、すべての地区にコミュニティがあるのが厚真の魅力と指摘し、「コミュニティや人のつながりを大切に、何かあって休んでも生活できるようにしたい」と語りました。また、宮野さんは、人のつながりが今に結びついているとしたうえで、「人を大切にしながら、パン工房以外の事業も考えたい」と話しました。堀田さんは、地震以降に家に人が来てくれるようになったことに感謝し、「頼り頼られ、笑って過ごせる厚真町の良さを大切にしたい」と述べました。

地域おこし協力隊 只野宏幸さんと西田浩隆さんに 委嘱状を交付



委嘱状を手にする西田浩隆さんと只野宏幸さん（左から）

厚真町の森を楽しむ会が10月13日に町環境保全林で開かれ、約20人が五感を使って秋の森を満喫しました。

町が主催し株式会社エーゼロ厚真が企画・運営しました。NPO法人森のこころね代表の松山道子さんと、札幌市の写真家の佐々木育弥さんを講師に招き、植物の観察や写真の撮り方などを学びました。

参加者は、ネイチャーゲームとして視覚を使ってシートに色分けされた赤や黄色に近い落ち葉や植物を集め、木漏れ日に包まれた森を散策して植物に触れながらコミュニケーションを深めました。

町民ら約20人が森に親しむ



松山道子さんの話に耳を傾ける参加者たち



協定書を示して記念撮影する関係者たち

町と町社会福祉協議会が災害協定を締結

町と社会福祉法人厚真町社会福祉協議会は10月18日、「厚真町災害ボランティアセンターの設置及び運営等に関する協定」を結びました。

町内で大規模災害が発生し、必要と判断された場合に町災害対策本部と連携して同協議会が主体的に災害ボランティアセンターを開設し、ボランティアを必要とする町民への調整や支援を行います。協定を締結した宮坂町長は「いざという時には、町民の心配ごとや不安が払しょくできるように社会福祉協議会としっかり連携したい」と話し、同協議会の大橋会長は「町や関係機関とタイアップして、町民の肉体的、精神的な負担軽減を図りたい」と語りました。



相次いで町内に桜を植樹



吉野地区で桜の苗木を植える参加者たち(上) 幌内地区でエゾヤマザクラを植える参加者たち(下)

10月から11月にかけて、町内で桜の植樹が行われました。

北海道が主催した「震災復興記念さくら植樹会『あの日を忘れない』」は10月22日、約30人が参加して吉野地区にエゾヤマザクラ30本を植えました。胆振総合振興局の谷内浩史局長が「震災を風化させることなく、豊かな森林を再生したい」と話しました。

11月2日は、南北海道スズキ販売株式会社の栗橋和幸代表取締役社長とスズキアリーナ有明の吉原貴久店長が、吉野地区でエゾヤマザクラ2本を植えました。吉原店長の発案で、車の展示会の販売益を植樹の寄付に充てました。栗橋社長は「お客さんもぜひ見に行きたいと話してくれた。今後も全力で応援します」と語りました。

町とイオン環境財団によるサクラの植樹会は、11月12日に幌内地区の町有地で行われ、約80人がおそろいのTシャツを着て、約0.5haの敷地にエゾヤマザクラ500本を植樹しました。西野副町長は「人が森に集まるようなきっかけを作ってください感謝しています」とお礼を述べると、イオン株式会社の渡邊廣之執行役員副社長は「人々が明るく集う場所にしていきたい」と語り、来年以降の植樹も約束しました。

宮の森こども園

ハロウィーンのサプライズプレゼント

10月31日に宮の森こども園の園児たちに株式会社曾我造園からハロウィーンにちなんでお菓子がプレゼントされました。

同社は、こども園に隣接する上厚真中央公園で、バスケットコートを設置工事をしています。仕事へのお礼などを込めて、プレゼントしました。園児たちは、思わぬプレゼントを贈られ満面の笑みで歓声を上げました。



仮装した園児にお菓子を贈る株式会社曾我造園の曾我清貴社長(右)

野菜たっぷり減塩レシピコンテスト 「ハロウィーン春巻き」がグランプリ



最終選考の料理3品を試食する親子

あつまっ子・食と健康向上委員会主催の「野菜たっぷり減塩レシピコンテスト」の最終審査が11月3日、厚真町食生活改善推進協議会協力のもと町文化祭会場で行われました。

最終審査は、ショウガやスパイスで味付けした「日本風チャークニャイスッモアン」、厚真産のジャガイモにシラスや塩昆布で味を調えた「あつまいもに集合」、カボチャやピーマンなどにきな粉を加えてあげ焼きにした「ハロウィーン春巻き」の3品の中から選考。同協議会が調理し、来場した町民が試食、審査して1人1票を投票しました。その結果、投票総数101票のうち「ハロウィーン春巻き」が半数を超える57票を集めてグランプリに選ばれました。